愚者とオルゴール

かーばんくる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
愚者とオルゴール

【Ｎコード】
Ｎ９６８２Ｚ

【作者名】
かーばんくる

【あらすじ】
懐かしく美しい、それでいてどこか哀しいオルゴールの音色を聞いた事からすべてが始まった。
オルゴールの音色に引かれていった先にいた少女
徐々に明かされていく少女の秘密、そして自分自身にかかわる秘密
衝動的に書き始めた作品ですがどうか読んでやってください。

序章（前書き）

はじめまして（＞０＜）

唐突に書き始めた作品ですがよろしくお願いします（　）

序章

オルゴールの音が聴こえる。とても優しく、懐かしくそれでいてどこか哀しい音色だ。
和哉は音の元を探してフラフラと歩き出していた。

寂れた公園、オルゴールの音色はそこからしていた。
まるで人々から忘れ去られたように錆付いた遊具に夕暮れの茜色の斜陽が差し込む。
公
園の中央にその少女は立っていた、全身を白のワンピースでつつんだその少女は胸に小さな木箱を抱えている。

このオルゴールの音、あの箱からしている。

「そのオルゴール、綺麗な音だね」
和哉は思わずその少女に声を掛けていた、少女はそうでもしないと消えてしまいそうなほど、儚げでさびしそうに見えたからだ。
和哉の言葉にまったく反応を示さない少女。
「ねぇ、君……」
この子、聴こえていないのかな。
そんな反応に不安を感じ、和哉は少女へと歩み寄る。
少女の目の前まで歩いた時、突如、顔を伏せていた少女が顔を上げた。
「あ、やっと顔を上げてくれた」
喜ぶ和哉をよそに少女は小さく、一言だけ和也に告げる。
「あなたの……あなたの家族が、今日死ぬ」
何を……言って。
「何を……」

そこまで言いかけた時、一陣の風が凪いだ。

序章（後書き）

いかがでしたか？

感想などをいただけるととてもありがたいです。

第一章（前書き）

すみません、今回かなり短いです。

第一章

目を覚ませば視界にはいるのは見慣れた自室の天井。

不思議な夢だ……。

ゆっくりと体を起こし、大きく伸びをする。

今日から夏休みに入るというのになんて夢だ。

今日単身赴任していた父が家に帰って来る、更に県外の中高一貫校に通い、寮生活をしている妹も夏休みだということでこの家に帰ってくるのだ。

……本当にこんな日になんて夢見てんだよ

『あなたの家族が今日、死ぬ』

思わず夢の中で聞いた言葉を思い出し和哉は思わず身震いする。

まったく、冗談じゃない。どうせ、ただの夢だ。

そう、どうせただの夢だ……。

学校へ登校しても和哉の心の中で燻るどうしようもない不安は消えることは無かった。

それどころか不安はどんどんと不安は膨れていくばかりだった。

夢だと分かっていても少女の言葉を忘れることが出来ない

『あなたの家族が今日、死ぬ』

こういった少女の表情がふと目に浮かぶ、無表情の中にわずかばかりの悲しみが藻いて取れたあの顔がどうしても頭から離れない。

学校が終れば和哉は自宅へ全速力で駆けた。

第三章（前書き）

今回はグロテスクな描写があります。

苦手な人は注意してください

第三章

目に見えるのは轟々と燃盛る炎、そしてそれを消そうと必死になっている消防隊の人々。

何だこれは！

炎に包まれた家、あの中には家族が自分の帰りを待っているはずなのに。

気づいたら和哉は炎に包まれる家へと駆け出していた。

「君！　待ちなさい！」

消防士の清楚芋振り切って業火の中へと飛び込む。

家の中はまさに灼熱の地獄だった。

『あなたの家族が今日、死ぬ』

耳によみがえるあの言葉、それを首を振って払い、家族の名を叫びながら家の中を進む。

「母さん！　父さん！　繭香（まゆか）！　どこ、いるなら返事を！」

リビングへ続く扉を蹴破り中へ駆け込む。さっと首を巡らせて部屋の中を確認すれば目に入ってくるのは地面に壁にもたれ座り込む父の姿だった。

「父さん！」

和哉は父の体に駆け寄りその体をゆする。

「父さん、大丈夫？　すぐに外に連れてく、か……ら？」

和哉にゆすられていた父の体がゆっくりと倒れ、首が転がる。

「……え？」

何、これ。

転がる首は何か（・）にぶつかって止まる。
それにつられるようにゆっくりとその何かに目を向ける和哉。
「かあ、さん？」
それはただの肉塊と変わり果てた母の死体だった。
思わすその場に嘔吐する和哉。
中の良かった家族の惨たらしい死体を前に、和哉の心をゆっくりと暗い絶望が覆って行く。
「何だよ、何なんだよこれぇ！」
涙を流し、声を枯らし叫ぶ。
「そうだ、繭香は！」
二人の死体と正反対の壁際に繭香はいた。……地面に横たわって。
その血の気の無い顔と周りに広がる鮮血から一目で既に命が無いと分かる。
「あ、あぁあぁぁあああ！」
誰だ！　誰がやった！

絶望に吼え、狂気の涙を流し和哉は叫ぶ。
「誰だ！　誰がやった！」

返事はない。周りからは家具の、家の燃える音がするばかりで。
人の気配はまったく無かった。

父さん、母さん、繭香。

三人の死体を眺め、地面に座り込む和哉。

「みぃつけた」
不意に耳元で声がした。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9682z/

愚者とオルゴール

2012年1月6日02時47分発行